



04 はたけんぼ動物園と芋煮会に参加する。

国立市

大人 2,000円 小人 1,500円 (2人目以降 1,000円)

2024年2月12日(月・祝) 11:00~14:00 定員 80名

※3歳以下無料 ※お弁当など持ち込み自由

体験内容 2023年に生まれたヤギ2頭をはじめ、ウサギや烏骨鶏などの動物とのふれあいや、焚き火と大きな鍋でつくる芋煮と焼き芋を参加者と交流しながら食べる会



詳細はこちら

自分らしく、開放される居場所

どんな役割を増やしているはたけんぼだが、だからこそ逆に「学校や会社、社会から付与されている役割から開放されてほしいんです」と小野さん。コロナをきっかけに学校に行っていない市内の子どもたちを受け入れるようになり、教育委員会を通して「フリースペースはたけんぼ」としても学校に認められ、現在は国立市内の公立の小中学校に関しては、はたけんぼに来ることで出席扱いになるといふ。教師たちの研修として、ワークショップなども行っている。

コミュニケーション力が高い人に価値があると思われるがちな現代の中、ただそこにある草を食むということだけを無心に行っているヤギたちを見ているだけで、何だか日々の悩みが吹き飛んでしまう。気がつかないうちに自分で自分に重圧をかけ役割を担うことに力が入ってしまっていた気持ちだが、はたけんぼの空間で過ごしているとゆるゆると解けていく。

これからの展望を小野さんに尋ねてみると「学校をつくりたいですね。ただ定義づけはしたくないので、あえてどんな場所か分かりづらくしていきたいです」これからはたけんぼは、たくさんの方の表情を見せてくれる。

くにたちはたけんぼ

DATA
国立市谷保 661 / NPO 法人 くにたち農園の会
事務局：国立市谷保 5119 やぼろじ内 / 042-505-7200
kunitachinouen@gmail.com https://hatakenbo.org/



肩書きや役割から自由になれる場所

農園の枠を超えた、地域の活動拠点

「目的のない人も、自由になれる拠点なんです」理事長の小野淳さんは、新しく仲間に加わった白ヤギと黒ヤギたちを優しく撫でながら「くにたちはたけんぼ」について話してくれた。国立市の谷保駅から程近く、国立インターのすぐそばにあるその「農園」は、ただ野菜を収穫するだけの場所ではない。2012年にスタートした、農地を活かしたまちづくりに取り組むNPO法人「くにたち農園の会」が運営を行っており、ただ農作業するだけではなく遊びや学び、交流やビジネスの場などさまざまな形で活用されている「新しい形の農園」だ。

参加の仕方も多種多様で、季節を通して収穫祭やお餅つきも開催される田んぼ体験(田んぼ会員登録が必要)をはじめ、子どもたちの食育や留学生の交流、婚活まで多世代を対象にしたイベントが随時開催され、企業や市民サークル向けの貸し農園など多摩エリアの都市農業の可能性を、いろいろな表情を持って広げている。

また、農園の会は農業にとどまらず地域の子育て支援事業である古民家「つちのこや」や国立市内にある国立大学の一橋大学の学生が運営に関わっている民泊「ゲストハウスこたまや」、認定こども園「国立富士見台団地風の子」などにも取り組んでいる、地域にとって欠かせない存在となっている。